

CISPR14-2 第3版が発行されました

2020年9月に、CISPR14-2第3版が発行されましたので、CISPR14-1に引き続き、改正の内容についてご紹介します。

CISPR14-2は2015年2月に第2版が発行され、2017年のCISPR/F/WG1ロンドン中間会議から改正審議が開始されました。本来は第2版修正1として審議されていましたが、改正のボリュームが非常に大きかったため、第3版として発行されることになりました。以下、主な改正点をご紹介します。

【6GHzまでの周波数拡張】

放射電磁界イミュニティ試験の上限周波数が6GHzまで拡張されました。

【カテゴリーVの新設定】

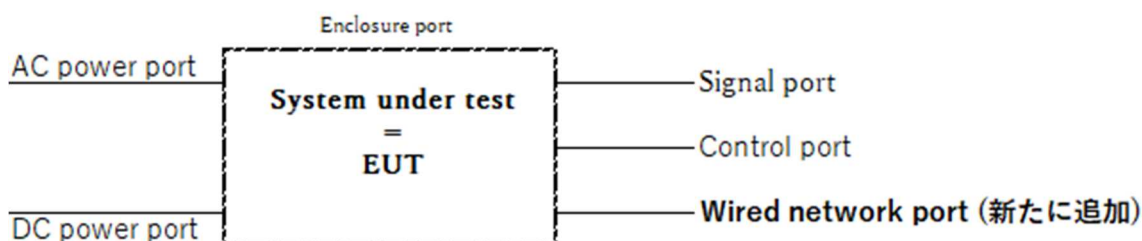
これまでカテゴリーはIVまで設定されていました。クロック周波数が200MHzを超えるものはカテゴリーVに分類され、6GHzまでの放射電磁界イミュニティが適用されます。

【無線機能を持った機器の追加】

Wifiなどの無線通信機能を持つ家電製品も適用範囲に含まれることが明記されました。

【ネットワークポートの取り扱い】

有線ネットワークポートが試験対象として追加され、無線通信機能は試験対象としないことが新たに規定されました。



【統計的評価手法の削除】

統計的評価手法の規定が削除されました。

【定義の追加・見直し】

CISPR14-1と同様に「ancillary equipment」「associated equipment」「auxiliary equipment」「system under test」などの用語が新たに定義されました。

JETでは、最新規格に対応した試験実施体制を常に整えています。

また、分からない解釈などございましたら、お気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

(一財) 電気安全環境研究所
EMC試験センター
E-mail: jet-emc@jet.or.jp

